ライブラリィ　とやま

「読む」から「集う･学ぶ」へ　－図書館の新たな挑戦－

富山県立図書館長　亀遊　知子

この４月に県立図書館へ着任いたしました。

静かな閲覧室を歩きながら書架を眺めていると、そこに並ぶ一冊一冊の本に刻まれた先人の思索や営みが、時代を超えて語りかけてくるように感じられます。また、ふと目に留まる本のタイトルが、その日の天気や気分によって変わるのも書架をめぐる楽しみの一つです。

さて、令和８年３月、文部科学省の図書館・学校図書館の運営の充実に関する有識者会議は、報告書『図書館が拓く未来の学びと地域社会』を公表しました。報告書では、社会や学校を取り巻く課題が複雑化・多様化する中、図書館には従来の「地域の知の拠点」としての機能に加え、人々が集い、つながり、新たな学びを生み出す空間としての役割が求められているとしています。

県立図書館では、令和７年４月、多様な世代が利用できる環境づくりの一環として、本館２階に「つながりのコレクションルーム」を設置しました。子どもや子育て世代も気兼ねなく過ごせる空間として整備し、おはなし会や短期大学との連携事業、県内プロスポーツチームとの連携展示などを通じて、新たな利用の可能性を広げています。

その取組みの一つとして、 今年の５月20日、「アンサンブル30による音楽と朗読のひととき」と題した新緑の図書館コンサートを開催しました。

当日は、ヴァイオリン奏者の島田恭歌さんによる、テレマン作《無伴奏ヴァイオリンのための12のファンタジア》の演奏に続き、ナレーターの宮本聡美さんが、辻邦生作「十二の肖像画による十二の物語」より第一の物語『鬱ぎ』を朗読されました。静かな館内に響く音楽と言葉が調和し、豊かな余韻が会場を包みました。



また、同日には休憩室にcafé&bowl coconieさんのカフェも特別出店されました。香り高いコーヒーを味わいながらコンサートを楽しむ来館者の姿が見られ、「今後も続けてほしい」との声も寄せられるなど、新たな図書館像への期待を感じる機会となりました。

文部科学省の報告書では、図書館を単に本を貸し出す場所としてではなく、「読む」「集う」「学ぶ」を融合させた地域共創の拠点へと発展させていく方向性が示されています。今回の催しも、多世代が文化芸術に親しむとともに、人と人のつながりを育み、それぞれが新たな発見や気づきを得る機会となりました。図書館が知識や情報を提供するだけでなく、人々を結び、豊かな学びを支える場であることをあらためて実感しています。

これからの図書館には、自宅でも職場でも学校でもない「第三の場所」として、誰もが心地よく過ごせる環境が求められています。県立図書館も、「調査研究のための図書館」「図書館のための図書館」「保存のための図書館」という使命を大切にしながら、県民一人ひとりの学びを支え、文化を未来へつなぐ知の拠点として、その役割を果たしてまいります。

県立図書館で閲覧できる主な新聞をご紹介します

新聞は、過去のできごとから最新のニュースまで、あらゆる情報を知るための有力な情報源です。県立図書館では、明治時代から現在までの県内・県外の新聞を所蔵しており、調査・研究に活用されています。本館１階・新聞雑誌閲覧室でご利用いただけます。

・原紙（新聞紙そのもの）は傷みやすいため、古い年代の記事はパソコンの新聞データベースをご利用いただいています。年代によってはキーワード検索も可能です。
・書庫にある新聞もありますので、室内にない場合は職員までおたずねください。


新聞雑誌閲覧室

〇県内新聞

紙　名	主な閲覧方法
北日本新聞	北日本新聞データベース 北日本新聞（昭和15年８月～） 前身紙　・中越新聞（明治18年10月～） ・富山日報（明治22年７月～）など11紙 原紙（最近４年分）
富山新聞	北國・富山新聞紙面検索システム 富山新聞（昭和21年３月～） 前身紙　・北國新聞中越附録（のち越中新聞）（大正12年５月～） 原紙（最近４年分）

〇県外新聞・全国紙（＊印の新聞は富山版、北陸版のページも閲覧できます）

紙　名	主な閲覧方法
北國新聞	北國・富山新聞紙面検索システム（創刊 明治26年８月～） 縮刷版（昭和47年９月～平成28年３月） 原紙はありません
北陸中日新聞＊	原紙（最近３年分）
中日新聞	縮刷版（昭和47年12月～令和７年３月）
朝日新聞＊	縮刷版（明治21年７月～） 朝日新聞記事総覧（縮刷版の目次集）（大正元年７月～昭和64年１月） 原紙（最近３年分）
読売新聞＊	縮刷版（昭和35年12月、昭和46年４月～） 原紙（最近３年分）
毎日新聞＊	縮刷版（昭和35年12月、昭和45年４月～） 原紙（最近３年分）
産経新聞＊	原紙（最近３年分）
日本経済新聞＊	日経テレコン（昭和50年～） （注：著作権等のため本文が表示できない記事もあります） 縮刷版（昭和40年１月～） 原紙（最近３年分）

このほか「日刊工業新聞」「薬事日報」「The Japan News」などの専門紙、外国語新聞もあります。
詳細はホームページの「新聞・縮刷版リスト（県立図書館）」をご参照ください。

ふるさと文学講演会「百人一首の謎と競技かるた入門」


講演される中﨑圭子氏

6月17日に、「ふるさと文学講演会」（富山県読書会連絡協議会との共催）が、当館で開催されました。講師は、元富山県立図書館長で、全日本かるた協会A級公認読手の中﨑圭子氏で、参加者は77名でした。

講演では、百人一首の特徴として、月を詠んだ和歌が11首と多いことや、秋の歌が春の歌の3倍も多いことなどをお話しされました。藤原定家がこの百首を選んだ謎に対しては、後鳥羽院に寄せる鎮魂の歌集だったのではないかという説を紹介されました。

後半では、“畳の上の格闘技”とも呼ばれる、競技かるたについてお話しいただきました。最近はマンガ『ちはやふる』が人気となり、かるた人口が増えたそうです。上の句の一字だけで取り札が決まる「一字決まり」の札があること、お手付きは相談の上で解決すること、自陣・相手陣ともに最後の一枚となった試合を「運命戦」ということなどを画像とともに楽しく説明していただきました。

終わりに、参加者全員で、「あいみての　のちのこころにくらぶれば　むかしはものを　おもわざりけり」の和歌を詠唱し、会場は百人一首の雅びな雰囲気に包まれました。

お気軽におたずねください　レファレンス事例集

Q 明和6（1769）年の夏に、京都で「毛」のようなものが降った、という記録がある。
このとき越中でも同様のものが降った、との記録が公式文書や日記などにないか。

A ご質問の「毛」のようなものとは、「火山毛（かざんもう）」といわれ、火山が噴火してマグマの一部が飛散するときに引き伸ばされ、ガラス質の繊維状になったものです。日本の火山噴火の記録をまとめた『日本噴火志』には、「明和六年五月三日　京都及諸国ニ長サ二寸ヨリ七八寸許リノ黒白色ノ毛降ル」との記録があります（出典史料『続日本王代一覧』）。ここでは「諸国」とあり、京都以外の地域名は具体的に書かれていません。

まず、富山県の気象災害を記録した『富山県気象災異誌』『富山県災異史料』、日本の地震の歴史の記録をまとめた『増訂大日本地震史料』などを確認しましたが、同年に越中の火山毛に関する記載は見当たりませんでした。そこで、国立国会図書館のデータベース「デジタルコレクション」でキーワード検索すると、時代は下りますが、天明3（1783）年の浅間山の噴火によって、加賀、越中、奥州などで白い毛が降った、という記録がありました（『信濃』第57巻11号、出典史料『浅間焼出大変記』）。

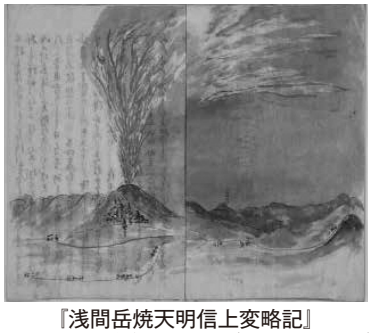
前述の『日本噴火志』には、このほかにも歴史書に見える降灰、火山毛の記事があり、日本では古くから各地で繰り返し噴火・地震があったことがわかります。

なお、日本にはハワイ島のように粘性の小さいマグマを噴出する火山はほとんどないため、歴史史料の記録には細かな植物の茎などを火山毛と誤認した例もあるようです。

（日本火山学会「火山についてのQ＆A」
https://kazan.or.jp/J/QA/sr/qa-5911.html）

参考文献

- 『日本噴火志』（震災予防調査会／編　五月書房　1982年）
- 『富山県気象災異誌』（日本気象協会富山支部　1971年）
- 『富山県災異史料』（富山測候所　1940年）
- 『増訂大日本地震史料　第2巻』（震災予防協会　1943年）
- 『信濃』57(11)（信濃史学会　2005年11月）
- 国立国会図書館デジタルコレクション
  https://dl.ndl.go.jp/


『浅間岳焼天明信上変略記』
（長野県立歴史館 信州デジタルコモンズ）

つながりのコレクションルームでのイベント

「おはなしチューリップによるおはなし会～富山の昔話から～」

富山県内の昔話資料から、子どもたちが耳で聞いてわかるように再話を行っているグループ「おはなしチューリップ」によるおはなし会を３月25日に開催しました。『立山町史』から再話した「立山と白山の背くらべ」や、『上市のむかしばなし』から再話した「鬼と千本やり」など４話に手遊びを交え、参加者と昔話の世界を楽しみました。

※同グループは平成31年４月から、当館研修室で所蔵資料を活用し、県内の昔話の再話を行っています。

「アンサンブル30による音楽と朗読のひととき　Vol.１・Vol.２」

富山市呉羽地区を本拠に、16世紀から18世紀当時の楽器を復元したもので演奏を行っている、古楽アンサンブルユニット「アンサンブル30」によるコンサート「音楽と朗読のひととき」Vol.１を５月20日、Vol.２を６月23日に開催しました。

辻邦生作「十二の肖像画による十二の物語」の世界を、宮本聡美氏の朗読と、作曲家テレマンの曲をアンサンブル30のメンバーの演奏でお届けするプログラムです。（Vol.１の曲と演奏者：テレマン「無伴奏ヴァイオリンのための12のファンタジア」：ヴァイオリン　島田恭歌氏／Vol.２の曲と演奏者：テレマン「無伴奏ヴァイオリンのための12のファンタジア」より第３番：ヒストリカル・ヴァイオリン　鈴木崇洋氏）

また、コンサートに合わせ、呉羽地区のカフェ「café&bowl coconie」が出店し、コーヒーを片手にゆったりと演奏に耳を傾ける来場者の姿も見られました。

Vol.３以降も継続して開催する予定です。ご期待ください。


おはなし会


音楽と朗読のひととき Vol.１


音楽と朗読のひととき Vol.２

新着読書会テキスト

・垣谷　美雨　著　「空き家と移住」（朝日新聞出版）
・五木　寛之　著　「大河の一滴　最終章」（幻冬舎）
・浅香　　恵　著　「タイシさまの砦」（西田書店）
・鈴木　俊貴　著　「僕には鳥の言葉がわかる」（小学館）
～河合隼雄学芸賞・新潮ドキュメント賞受賞～
・宮本　　輝　著　「湾」（新潮社）
≪県民カレッジ叢書≫
・養老　孟司　述　「日本人の壁」（富山県民生涯学習カレッジ）

グループでの読書会にご利用ください。

１タイトルを10冊セットで貸出します。

＜お問い合わせ先＞
富山県立図書館 普及課
Tel.076-436-0229

休 館 日　毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、5月8日
館内整理日　毎月第4木曜日（祝日の場合は翌日）
蔵書点検期間（令和9年1月26日～2月4日）
年末年始（12月28日～1月4日）

開館時間　火～金曜日（ただし、休館日を除く）午前9時～午後7時
土日・祝日（ただし、休館日を除く）午前9時～午後5時

貸　　出　1人10冊まで、15日間

交通機関　富山駅前発バス（4番乗場）
・高岡、小杉方面行バス 呉羽山公園下車徒歩10分
・新港東口行又は国立高専射水キャンパス行バス 県立図書館前下車

＊資料のお問い合わせは、調査課へ
TEL（076）436－6812

ホームページ
図書・雑誌の検索や新着図書の確認ができます

X（旧 Twitter）
図書館の行事などお知らせをつぶやきます

令和８年度 雑誌スポンサー募集中

詳しくは総務課まで、お問い合わせください。
ホームページでも案内しています。
TEL 076-436-0178

編刊・富山県立図書館　令和８年７月28日
TEL（076）436－0178
FAX（076）436－1891
〒930－0115　富山市茶屋町206－3